

(案)

【平成27年結核登録者情報調査年報 集計結果（概況）】

本年報は、平成27年1月1日から同年12月31日の間に新たに登録された結核患者及び潜在性結核感染症(※1)の者と、平成27年12月31日現在に登録されているすべての登録者に関する状況を、結核登録者情報システムにより取りまとめたものである。

- ① 年間の新登録結核患者数は前年から1,000人以上減少し、結核罹患率(人口10万人対の新登録結核患者数)も前年の15.4から14.4となり、減少傾向が続いている。しかし、いまだ年間1万8千人以上の結核患者が新たに登録されており、喀痰塗抹陽性肺結核(※2)患者も年間7千人以上登録されている。

- ・ 新登録結核患者数：18,280人（対前年比1,335人減）
- ・ 新登録結核患者罹患率（人口10万対）：14.4（対前年比1.0減）
- ・ 喀痰塗抹陽性肺結核患者数：7,131人（対前年比520人減）
- ・ 喀痰塗抹陽性肺結核患者罹患率（人口10万対）：5.6（対前年比0.4減）

- ② 結核患者の高齢化は進行し、特に新登録結核患者のうち80歳以上の結核患者は38.3%となっている。また、80歳以上については罹患率も高くなっており、70歳代と比較して約2.6倍、60歳代と比較して約5.4倍となっている。

- ・ 80歳以上の新登録結核患者が全体に占める割合：37.7%(H26) から38.3%(H27)に増加
- ・ 80歳以上の新登録結核患者の罹患率（人口10万対）：69.8(H27)
- ・ 70～79歳の新登録結核患者の罹患率（人口10万対）：26.5(H27)
- ・ 60～69歳の新登録結核患者の罹患率（人口10万対）：12.9(H27)

- ③ かつて結核がまん延していた時期に結核に感染したが発病せず、現在、高齢となって発病した者（既感染発病者）が多いと考えられる65歳以上の年齢層において罹患率が高い。

- ・ 65歳未満の者の新登録結核患者の罹患率（人口10万対）：6.6
- ・ 65歳以上の者の新登録結核患者の罹患率（人口10万対）：35.5

- ④ 小児結核(0～14歳)の新登録結核患者数は、昨年に比べほぼ横ばいであった。結核性髄膜炎、粟粒結核の重症患者は2人であった。

- ・ 小児新登録結核患者数：51人
(H24；63人、H25；66人、H26；49人)

(案)

- ・ 小児新登録喀痰塗抹陽性肺結核患者数：2人
(H24；5人、H25；0人、H26；1人)
- ・ 小児新登録結核性髄膜炎：1例
(H24；1例、H25；2例、H26；5例)
- ・ 小児新登録粟粒結核：1例
(H24；0例、H25；0例、H26；1例)

⑤ 潜在性結核感染症(LTBI) (※2)の新登録者の数は、昨年と比べ887人減少した。特に20歳以上49歳以下の者については、23%減少している。

- ・ 潜在性結核感染症(LTBI)新登録者数：6,675人(H26；7,562人)
- ・ 20歳以上49歳以下のLTBI新登録者数：2,721人(H26；3,526人)

⑥ 外国出生者の新登録結核患者数は増加傾向が続いており、6.4%となっている。特に、若年層の新登録結核患者における外国出生者の割合は大きく、20歳代では新登録結核患者の半数が外国出生者となっている。

- ・ 全年齢における新登録外国出生結核患者数：1,164人(6.4%) (H26；5.6%)
- ・ 15-19歳新登録外国出生結核患者数：57人(35.0%) (H26；33.3%)
- ・ 20-29歳新登録外国出生結核患者数：565人(50.1%) (H26；43.0%)
- ・ 30-39歳新登録外国出生結核患者数：252人(22.9%) (H26；19.7%)

⑦ 日本国内における結核罹患率は地域差がみられ、首都圏、中京、近畿地域等の大都市において高い傾向が続いている。一方、低まん延国の水準とされる結核罹患率10.0を下回っている都道府県は、今年の6県から9道県に増加している。

- ・ 大都市の新登録結核患者罹患率(人口10万対)：
大阪市(34.4)、名古屋市(22.4)、堺市(22.0)、神戸市(21.3)、東京都特別区(19.1)
- ・ 新登録結核患者罹患率(人口10万対)10.0未満の道県：
山形県(7.3)、長野県(8.3)、宮城県(8.5)、秋田県(8.5)、山梨県(8.7)、
福井県(9.1)、群馬県(9.7)、福島県(9.8)、北海道(9.9)

⑧ 受診が遅れる(症状発現から受診までの期間が2か月以上の割合)患者の割合は、20%となっている。特に、30歳～59歳の働き盛りで感染性のある結核患者において、37%の患者に受診の遅れがみられた。

- ・ 全年齢有症状肺結核のうち受診が遅れる割合：20.0%
(H25；18.1%、H26；18.8%)
- ・ 30-59歳の有症状喀痰塗抹陽性肺結核のうち受診が遅れる割合：37.1%
(H25；31.5%、H26；38.0%)

(案)

⑨ 新登録肺結核患者のうち多剤耐性結核(イソニアジド(INH)及びリファンピシン(RFP)の両剤に対して耐性)患者は48人であり、このうち外国出生者は33%に当たる16人であった。

- ・新登録肺結核患者のうち多剤耐性結核患者：48人(0.5%)
- ・上記48人のうち、外国出生者：16人(33%)

⑩ 医療従事者における新登録結核患者数は、看護師・保健師は減少したが、医師及びその他の医療従事者では増加している。

- ・看護師・保健師：219人(H25；234人、H26；249人)
- ・医師：61人(H25；66人、H26；47人)
- ・その他の医療従事者：264人(H25；281人、H26；255人)

(※1) 潜在性結核感染症(latent tuberculosis infection; LTBI)：結核を発病していないが、結核菌が感染していることを強く疑い、結核発病の可能性を下げるために治療が必要な場合を潜在性結核感染症と呼ぶ。

(※2) 喀痰塗抹陽性肺結核：患者の痰から多量の結核菌が排出されている結核のことであり、周囲の人達への感染源となりやすい。